

# 産業能率大学

田中彰夫ゼミ

小山チーム

「世田谷『愛』プロジェクト」

参加メンバー（敬称略）	
チームリーダー：小山 晃史（3年）	
岩田 満（3年）	斎藤 永（3年）
江森 裕介（3年）	菅沼 慈英（3年）
鍵山 三冬（3年）	吉田 駿（3年）
指導教員：田中 彰夫（経営学部現代ビジネス学科 准教授）	

# 世田谷「愛」プロジェクト

## 要旨

私たちは、世田谷区をより良い地域にするためには、区民が世田谷区をもっと愛することが大切だと考えた。そのためには、①ゴミの少ないきれいな街、②地域の人が助け合い安心できる街、③緑が美しい街であることが必要だと考え、この3つを実現するために私たちが考えた企画案が「世田谷『愛』プロジェクト」である。

### <① ゴミの少ないきれいな街について>

路上などの公共の場にごみを捨てる「ポイ捨て」が街の美化を損ねている。世田谷区では、「世田谷区ポイ捨て防止等に関する条例」の施行などにより、ごみのポイ捨てを抑制しているが、現状では依然としてポイ捨てや歩きたばこが減っているわけではない。条例に対して区民一人一人の認識が薄いことが問題であると考え。また、JTの「ひろえば街が好きになる運動」が、世田谷区でも2011年から行われている。しかしこの運動も突き詰めれば、捨てる人と拾う人が別のために、ごみのポイ捨てがなくなる訳ではない。

ポイ捨てを減らすためには、ゴミ箱を設置するか、各人がごみを持ち帰ることが必要だと考えた。ゴミ箱の設置・ごみの回収には莫大な費用がかかり現実的ではない。そこで私たちは、「ゴミ箱を一人ひとりが持ち歩けば良いのではないか」という考えに至り、ゴミを入れるためのトートバッグのようなものを区民に配布することを考えた。多くの人が持ち歩きたくなるようにするために、デザイン性を良くすることはもちろん、「持ち歩くことで付加価値が生まれる」工夫が必要だ。私たちはその付加価値として「クリーンポイント」制度を考えた。

### <② 地域の人が助け合い安心できる街>

私たちのグループには、地方から上京して一人暮らしをしている人がいる。そうした人の中には「自分と地域とのつながりを感じられない」という意見があった。学生の一人暮らしだけでなく、ひろく単身世帯を巻き込んだ地域の連携を作るために、私たちは「回覧板」に注目した。回覧板は、地域の出来事や行事を知ることができる上、次の人に回さないといけないという制約から、地域の一端を担っている「責任感」を感じることができる。さらに、次の人に回す際に近隣の人々の住んでいる家の様子を知ることができ、互いに直接顔を合わせることができる。地域としての繋がりを知る機会として、回覧板のような形が理想ではないかと考えた。

しかし、現在の世田谷区では区民があまりに多すぎて回覧板があまり機能していない現状があり、単身世帯が多く多忙な状況では回覧板を回すという事は現実的には難しいという結論に至った。しかし、それでもなんとか地域の輪を繋げたい！と考え、「世田谷回覧板ねっと」を考案した。

### <③ 緑が美しい街であること>

私たちはグリーンフェスティバルという催しを考えた。グリーンフェスティバルは、世田谷区民が一つになる日(special day)である。イベントとして、屋台販売、世田谷区の団体による催し、親子でペアとなり他の親子と競う親子チャレンジの他、クリーンポイント(①)で貯めてきたポイントを使用できるガラガラ抽選会、回覧板ねっと(②)との連携イベントの5つである。

ポイ捨てをゼロにする運動、「世田谷回覧板ねっと」、「グリーンフェスティバル」、この3つの取り組みがつながり、世田谷区民にとって身近な物になれば、世田谷区をより安心でき、緑が豊かで美しい街にすることができるのではないかと考える。そして、世田谷区を愛する区民の方々が一人でも増えることで、今よりももっと暮らしやすい街になるのではないかと感じている。

# 世田谷『愛』プロジェクト

～世田谷をより良い街にするために～

産業能率大学 田中ゼミ

October 17, 2014

作成者：3年 小山晃史 岩田満 江森裕介 鍵山三冬  
齋藤永 菅沼慈英 吉田駿

## 目次

はじめに

計画概要

- 1.世田谷 ゴミのポイ捨てをゼロにする運動 **P3~5**
- 世田谷区現状について
  - ポイ捨ての原因と新たな提案
  - クリーンポイント制度について
- 2.世田谷回覧板ねっとプロジェクト **P6~9**
- 世帯状況について
  - 回覧板ネットの仕組み
  - グリーンフェスティバルとの連携
- 3.世田谷グリーンフェスティバル **P9~11**
- 概要と流れ、開催意義について.
  - グリーンパークの概要について
- 終わりに

# はじめに

私たちは、世田谷区をより良い地域にするためには、区民が世田谷区をもっと好きになることが大切だと考えた。そして私たちは、世田谷区がもっと愛される街になるために必要なものと考えたところ、以下の3点にたどり着いた。

1. ゴミの少ないきれいな街にする
2. 地域の人が助け合い、安心できる街にする
3. 緑が美しい街にする

この3つを実現するために私たちが考えたものが、「世田谷『愛』プロジェクト」である。

## 1. 世田谷 ゴミのポイ捨てをゼロにする運動

### 世田谷区的生活環境 現状

- 東京23区中最大の**約87万人**(平成26年8月時点)
- 都市生活型の為、建設作業に伴う騒音、振動の苦情あり  
→土地利用の変化により**自然の減少**。  
→緑被率は**33.9%**(昭和48年)→**22.89%**(平成23年)
- 路上などの公共の場にごみを捨てる**「ポイ捨て」**が街の美化を阻害

路上などの公共の場にごみを捨てる「ポイ捨て」が街の美化を損ねている。私たちはまず、世田谷区で問題視されている「ゴミのポイ捨て」について対策を考えた。現在、世田谷区では区内全域でのポイ捨て・落書きを禁止する「世田谷区ポイ捨て防止等に関する条例」の施行や、環境美化推進活動に積極的な地区を「環境美化推進地区」として認め、環境美化推進地区内でのポイ捨て行為に対して、罰金などの規定を定めるなどの活動をしている。

しかし、現状では依然としてポイ捨てや歩きたばこが減っているわけではない。条例に対して区民一人一人の認識が薄いことが問題である。今後、条例主旨の周知徹底を進めていくことが課題となる。

### 現在行われているポイ捨て対策

世田谷区ポイ捨て等に防止等に関する条例  
▶ごみのポイ捨てや路上喫煙の禁止などに関する条例  
**問題点**：条例に対して区民一人一人の認識が薄いことが問題

JT「ひろえば街が好きになる運動」  
▶自治体、学校、ボランティア、各催事の実行委員会や協働団体など、様々な人たちとごみを拾う活動  
**問題点**：捨てる人と拾う人が違うことが問題

↓  
**ゴミのポイ捨てがゼロになるわけではない**

また JT の「ひろえば街が好きになる運動」通称「ひろまち運動」が多く地域で行われており、世田谷区でも 2011 年からこの活動が行われている。ひろまち運動の目的は～『ひろう』という体験を通じて、『すてない』気持ちを育てたい。もっともっとすてない人を増やしたい。～というもので、受付で清掃道具を受け取り、ゴミを拾うという、いわばボランティアのような形で実施されている。

参加者は年々増えており、活動の規模も大きくなってきてはいるが、「ゴミを拾う人」と「ゴミを捨てる人」は別であるため、ごみのポイ捨てがゼロになることはなく、私たちの通学路にもペットボトルや空き缶、吸い殻などが捨てられている姿をよく目にする。街の美化運動が進み、以前より街の美化に対して意識を持つ人が多くなったとは言え、ポイ捨てが完全になくなっていないわけではないのだ。

## ポイ捨ての原因

### ・ポイ捨てを減らす

- × ごみ箱を増やす  
……→ 莫大なコストがかかるために厳しい
- ごみを持ち帰る  
……→ 現実的

新たな提案として

ポイ捨ての原因として、街に設置されているゴミ箱の数が少ないという点が挙げられる。

街の至る所にゴミ箱が設置されていれば、ポイ捨ての数が減るのは見て取れるが、街にゴミ箱を設置するには莫大なコストが発生する。渋谷駅前、3ヶ所に設置されたゴミ箱を管理する東京都渋谷区を例にとると、定期的にゴミを回収したり、落書きを消したりというコストだけでも、年間1800万円かかっているという。このコストを考えると、ゴミ箱の設置は考え難い。

## 新たな提案

コンセプト：ゴミ捨て場を携帯する

ゴミを入れる用のトートバッグ  
「プツェンバッグ」の携帯



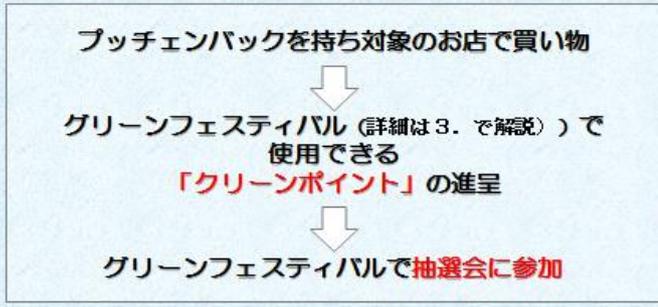
ポイ捨てを未然に防ぐ！

そこで、私たちは「ゴミ箱を一人ひとりが持ち歩けばいいのではないか」という考えに至った。もちろん“ゴミ箱”をそのまま持ち歩くわけではない。ゴミを入れるためのトートバッグのようなものを用意するのだ。

私たちは、このゴミ専用のトートバッグを「プツェンバッグ」と名付けた。プツェンとはドイツ語で“掃除”という意味である。“ゴミを捨てる場所”を自分で持ち歩くことで、ポイ捨てを未然に防ぐことができる。ただし、プツェンバッグを持ち歩かないことには意味がないので、多くの人が持ち歩きたくなるような工夫が必要になる。デザイン性を良くすることはもちろん、「持ち歩くことで付加価値が生まれる」工夫が必要だ。私たちはその付加価値として「クリーンポイント」という制度を考えた。

## 持ち歩きたくなる工夫

### クリーンポイント制度の導入



プツェンバックを持ち歩いて対象のお店で買い物をした場合、世田谷グリーンフェスティバル（詳細は3.で解説）で使用できる「クリーンポイント」をもらうことができる。「グリーンフェスティバル」は年に1度、砧公園で行われる区民の環境意識を高めるための催事のことで、その際に行われる抽選会の抽選権としてクリーンポイントを使うことができる。

### ※プツェンバックのイメージ図

このプツェンバックは、本体の高さ20cm、幅17cmのものを想定しており、これをキャンバス地の布を使って作る場合、ひとつあたりのコストは約500円となる。



約83万人いる世田谷区民一人ひとりのために、このプツェンバックを作るとすると、コストは約4億円になる。かなり莫大なコストだが、ゴミ箱の設置に比べると安く済む。私たちは、世田谷区内でのポイ捨てをゼロに近づけるために必要とされるゴミ箱の数を約725万個と見積もった。この計算は、「人がゴミを持っていられる限度は、一般の人が歩いて約30歩、距離にして約8メートル」という統計のもと、約58km<sup>2</sup>ある世田谷区の面積を考慮して考えたものである。この統計は、有名なテーマパークなどでも活用され、実際に効果が得られている。725万個のゴミ箱を設置したとして、その維持費等に掛かるコストは1年間で約43兆5000億円、ゴミ箱の数を半分に減らしたとしても約21兆円となる（前述の渋谷区の例を参考）。これを踏まえると、プツェンバックによるポイ捨てゼロを目指す方が良いと考えられる。

### 配布方法

- ① 学生ボランティアによる駅前配布
- ② 地域ごとにポスティング
- ③ 世田谷ねっと回覧板IDと一緒に配布



世田谷区に普及

次に普及方法について、世田谷区内の学生が積極的に持ち歩くことで、「プツェンバックを持ち歩くことが世田谷区民の習慣」となるように浸透させていく。プツェンバックの配布は、学生ボランティアを募集し、世田谷区内の駅前などで無料配布する。（一人一つ限定）

また、地域ごとにポスティングすることもあわせて考えている。更に、回覧板と一緒に地域に回すことで、より多くの世田谷区民にプツェンバックを手にしてもらおうとしている。

## 2. 世田谷回覧板ねっとプロジェクト

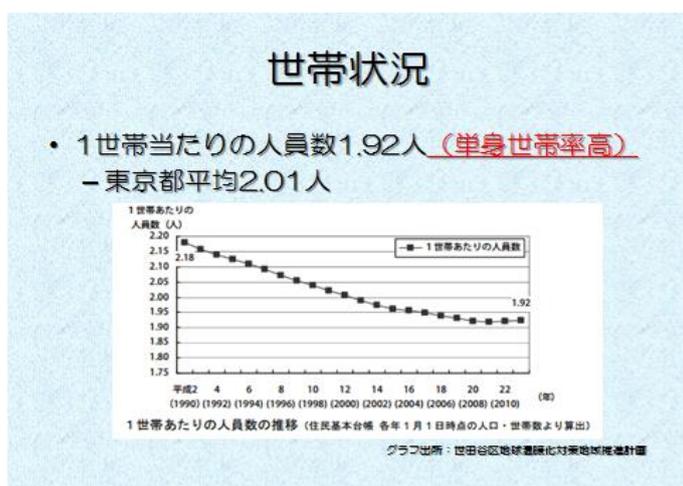
～はじまりは「世田谷区全地域に回覧板を回したい！」という思いから～

私たち産業能率大学田中ゼミ C グループには、実家から通学している人、地方から上京して一人暮らしをしている人がそれぞれいる。特に一人暮らしをしている人は、自分と住んでいる地域とのつながりを感じることができていないという意見があった。その理由は、

- ・地域のルールがわからない
- ・近くに住んでいる人もわからない
- ・いざという時、頼れる人がいない不安

といったものが挙げられた。

確かに大学生は 4 年間しかその地域にいない場合が多く、更に授業やバイトで多忙な大学生は地域とかかわりを持ちながら生活することは難しいのかもしれない。しかし、一人暮らしだからといって地域とかかわりをおろそかにしてしまって良いのだろうか？



世田谷区の1世帯あたり人員数は1.92人である。東京都平均の数値が2.01人ということ踏まえると、世田谷区は都内でも単身世帯率が比較的高い地域だといえる。区内に大学がいくつも点在していることから大学生が多く、更にアクセスの良さから一人暮らしの会社員も多いと推測される。都内でも単身世帯が多いということから、2人以上の世帯だけではなく、単身世帯をも巻き込んだ地域の連携が、本当の地域社会の構築には不可欠なのではないだろうか。

それでは、単身世帯をも巻き込んだ地域の連携を作るにはどうしたらいいのか？ 私たちはまず「回覧板」を目指した。回覧板は、地域の出来事や行事を知ることができるだけでなく、次の人に回さなければならないという制約から、地域の一端を担っている「責任感」をも感じることができる。更に、次の人に回す際に近隣の人々の住んでいる家の様子を知ることができ、互いに直接顔を合わせることができる。まず地域としての繋がりを知る機会として、回覧板のような形が理想ではないかと考えた。

しかし、現在の世田谷区では区民があまりに多すぎて回覧板があまり機能していない現実があり、前述の通り単身世帯が多く多忙な状況では回覧板を回すことは現実的には難しいという結論に至った。それでも、なんとか地域の輪を繋げたい！と私たちは考え、「世田谷回覧板ねっと」を考案した。

## 「世田谷回覧板ねっと」とは

- 区内の地域情報を発信するSNS
- 区民1人1人にアカウントを付与
- PC・スマホ・携帯対応でどこでもチェック可能

①ネット回覧板  
システム

②掲示板

③商店街  
ウェブチラシ

「世田谷回覧板ねっと」は、上記図のような機能を擁した区民限定 SNS である。単身世帯・一般世帯関係なく地域とのつながりを感じる一つのツールとして運営していく。

### ①ネット回覧板システム

- 現住所の町会の回覧板が閲覧できるシステム
- 回覧板グループ(近隣10世帯前後)の既読機能

例

- 山田太郎    田中花子    高橋次郎  
加藤 正    鈴木隆二    藤原 武

「世田谷回覧板ねっと」のメイン機能であるネット回覧板システムでは、一般的な回覧板と同様の内容がサイト上で閲覧できる。また、閲覧するだけでなく、既読機能を搭載し、近隣の人々の既読情報をいつでも確認できる。近隣の人々の存在を感じることができ、安否情報の一つの目安となる。

### ②掲示板システム

- 近隣10世帯程度の中で実名で意見交換ができる掲示板
- ゴミ捨て場当番や、災害時の安否確認などについて気楽に書き込める

例

32 田中花子 2014年10月6日 /08:15:00  
おはようございます。ごみ当番の田中です。今朝のごみ出しは問題ありませんでした

33 高橋次郎 2014年10月6日 /08:20:19  
田中さんありがとうございました。明日は加藤さんよろしくお願いします。

34 加藤正 2014年10月6日 /09:03:59  
了解しました~(^\_^)/

掲示板システムでは、回覧板の既読機能と同程度の世帯の中で利用することができる。例のようにゴミ出し当番

の確認だけではなく、生活リズムの合わない世帯同士がつながりをつくるきっかけになる。特に、生活に不安の多い単身世帯が、一般世帯の人々とのつながりを作ることが一番の狙いである。しかし、このシステムは単身世帯の人々にとってはメリットがあるが、一般世帯の人にはメリットがないように感じられてしまうかもしれない。一般世帯の人にもアクセスする価値があるシステムとして考えたのが、次の「商店街ウェブチラシ」という機能である。

### ③商店街ウェブチラシ

- ・ 現住所の町会及び任意で登録する  
チラシ配布希望エリアの商店街のウェブチラシが閲覧可能



「商店街ウェブチラシ」は、「世田谷回覧板ねっと」の利用促進と、商店街の活性化という2つの狙いがある。世田谷区は都内では小売店舗数・専門店数が1位であり、商店街数では大田区に次いで第2位である。ウェブチラシは、リアルタイムでお勧めや安売りを発信するもので、世田谷区の大きな特徴である商店街を更に発展させることにつながる。このウェブチラシを回覧板内で確認できるようにすることによって一般世帯の人にもアクセスするメリットが増え、回覧板がより地域の住民にとって身近なものになるという狙いがある。

### 利用促進



若年層・中年層

- ・ クリーンポイントとの連携  
回覧板システムにログインすると一日1Pゲット!  
※クリーンポイントは、グリーンフェスティバルで使えるポイント

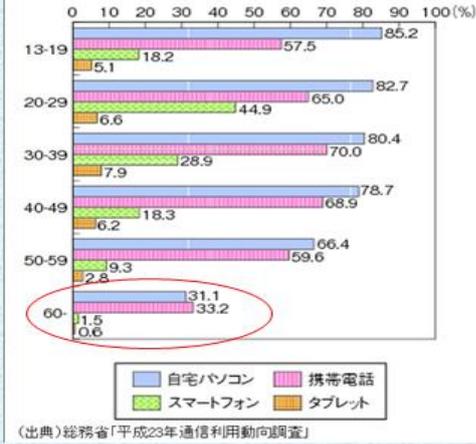
高齢者

- ・ 大学生による回覧板システムの説明会  
(自治会館などで開催)  
- スマートフォンを持っていない人でも使える  
携帯版への案内



ここまで、「世田谷回覧板ねっと」の3つの機能を紹介したが、まず利用者がアクセスし、常に活気のあるSNSにしていかないと、存在する意味がない。そのための利用促進として、若年層・中年層に関しては前章で紹介したクリーンポイントとの連携により、ログインポイントを加算していきたい。近年ネット環境が身近になっている若年層・中年層はSNSにアクセスすることは容易だが、メリットが無ければ継続してアクセスすることはない。メリットを多く提供して、継続的なアクセスにつなげていきたいと考えている。また、以下の資料からもわかるように、高齢者世代に関しては、ネット環境に親しみが薄く、まずSNSへのアクセスが困難である。そのため、まずは回覧板システムへのアクセスを教えもらいながら経験してもらうことが肝要だと考えた。つまり、回覧板システムの説明会の開催である。私たちネット環境に親しみのある学生が、地域貢献の一つとして各自治会館で説明会を開催する。まず地域社会に強く根ざしているのがこの高齢者の人々だ。この年代の方に利用してもらうことこそ、このプロジェクトの成功を左右する要素だと考える。

インターネットの世代別個人利用の状況(平成23年末)



## グリーンフェスティバルとの連携

- 「グリーンフェスティバル」と、「世田谷回覧板ねっと」が連携
  - 各町会が独自の緑の取り組みを計画、SNS上で各世帯での実践を呼びかけ
  - 各町会がブースを出展し、成果を発表
- ↓  
区民が投票
- ↓  
最も緑や地域の活性化に貢献した地域が決定

グリーンフェスティバル（詳細は次章で解説）では、世田谷区民と緑がつながるための取組みを行うが、その一端として、グリーンフェスティバルと世田谷回覧板ねっとが連携を行う。それぞれの町会が独自の緑への取組みを行い、実践を行う。成果はグリーンフェスティバルで発表し、各区民が優れている取組みに投票を行う。各町会が最優秀賞をめざし、団結を深めるのが目的である。

## 3. 世田谷グリーンフェスティバル

私たちはグリーンフェスティバルという催しを考えた。グリーンフェスティバルとは砦公園で緑を通じ、世田谷区民が一つになる日（special day）というのを目的としたイベントである。イベント内容は5つある。焼きそば等の屋台販売、世田谷区の団体による合唱やお遊戯会、親子でペアとなり他の親子と競う親子チャレンジ、クリーンポイント（第1章）で貯めてきたポイントを使用できるガラガラ抽選会、回覧板ねっと（第2章）との連携イベントである。

### ガラガラ抽選会

#### 参加方法

- 50ポイントで1回
- 75ポイントで2回
- 100ポイントで3回

#### 景品

- 1等：交通機関乗り放題券
- 2等：商品券3,000円
- 3等：エコバッグ
- 4等：キーホルダー
- 5等：Trash Box

ガラガラ抽選会では、1等に交通機関乗り放題券、2等に商品券3000円、3等にエコバッグ、4等にキーホルダー、5等にTrash Boxを用意し盛大な抽選会にする。50ポイントで1回、75ポイントで2回、100ポイントで3回回せる。このポイントはプッチェンバッグに同封されているポイントカードで貯めることで抽選会に参加できる。

私たちはこのグリーンフェスティバルを行う砧公園を、別名としてグリーンパークと呼ぶことを提案したい。その理由は、砧と読めない人が多いのと、より覚えやすくインパクトのある名前にすることで、今よりも認知度をあげようとするためである。

このグリーンパークとは砧公園の緑を利用し緑の活性化を図る場所である。

開催場所：砧公園  
所在地：東京都世田谷区砧公園1丁目  
アクセス：東急田園都市線用賀駅から徒歩13分  
または東急バス用22系統で「美術館」  
停留所下車  
面積：391,262.26m<sup>2</sup>  
施設：野球場、サッカー場、サイクリングコース、ファミリーパーク、アスレチック広場、  
**グリーンロード**…ランニング・ジョギング専用のコースを作り緑も感じることができる  
**グリーンカーテン**…野球場等のフェンスに蔦を作ることで日陰となり熱中症対策とする。

私たちが、砧公園で緑に注目した理由は以下の通りである。

- ・世田谷では現在、「世田谷みどり 33 に向けて」という活動を行っている。

世田谷みどり 33 に向けてとは、区制 100 周年 (2032 (平成 44) 年) にみどり率 33% の達成を目指すという活動である。現在取り組んでいる活動は大きく 6 個あり、緑と水による安全な町づくり、公園緑地の整備と運営管理、道路の緑化、緑の学校づくり、緑の公共施設づくり、民有地の緑の町づくりである。また、10 年間の目標として 2017 (平成 29) 年に緑率 27.5% の達成を目指し、112ha の緑と水を増やすと設定している。そして、目標量では公園 24.5ha 増やすとしていて、公園の緑量を増やすことに一番力を入れている。そのため私たちは公園に注目した。

- ・砧公園は、旅行情報サイトの口コミ人気ランキングで 8 位 (世田谷区の中ではトップ) に位置していることから砧公園に注目した。

砧公園の詳細は東京都世田谷区砧公園 1 丁目に位置し、アクセスは東急田園都市線用賀から徒歩 13 分、または東急バス用 22 系統で「美術館」停留所下車である。面積 391,262.26 m<sup>2</sup> の大きさある。施設としては野球場、サッカー場、サイクリングコース、ファミリーパーク、アスレチック広場がある。これらの既存の施設にさらに新しいものとして、「グリーンロード」と「グリーンカーテン」を作ることを考えたい。その理由は、グリーンパークという名前であるため緑をより強調し、緑を使った施設も用意する必要があると考えたからだ。グリーンロードはランニング・ジョギング専用のコースを作り緑と共に良い汗をかいてほしいという想いがあり、グリーンカーテンは野球場等のフェンスにたくさんの蔦を作ることで日陰となり熱中症対策を目的としている。

## 5W1H

When	自然を感じたい時
Where	グリーンパークで
Who	世田谷区民が
What	緑と触れ合う
Why	自然を大切にする
How	緑を増やし、守ることで

グリーンパークを5W1Hで表すと、自然を感じたい時、グリーンパークで世田谷区民が緑と触れ合うことで、自然を大切にして、緑を増やし守るということだ。

簡単に言うと、触れ合う、増やす、守る、癒しというのを最大のコンセプトとした場所である。

## 終わりに

私たちは、「ポイ捨てをゼロにする運動」、「世田谷回覧板ねっと」、「グリーンフェスティバル」、この3つの取り組みがつながり、世田谷区民にとって身近な物になれば、世田谷区をより安心でき、緑が豊かで美しい街にすることができるのではないかと考える。そして、世田谷区を愛する区民の方々が一人でも増えることで、今よりももっと暮らしやすい街になるのではないかと感じている。

### 参考文献

[http://www.publicart.co.jp/gen/press/press\\_070301.html](http://www.publicart.co.jp/gen/press/press_070301.html)

[www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/102/118/329/d00121783\\_d/.../1-2.pdf](http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/102/118/329/d00121783_d/.../1-2.pdf)

